

やってみよう！

「問い・思考・対話のある授業」へ

Theory of Knowledge

大阪教育大学 柏木賀津子

ファシリテーター 柏木 & 学生アシスタント



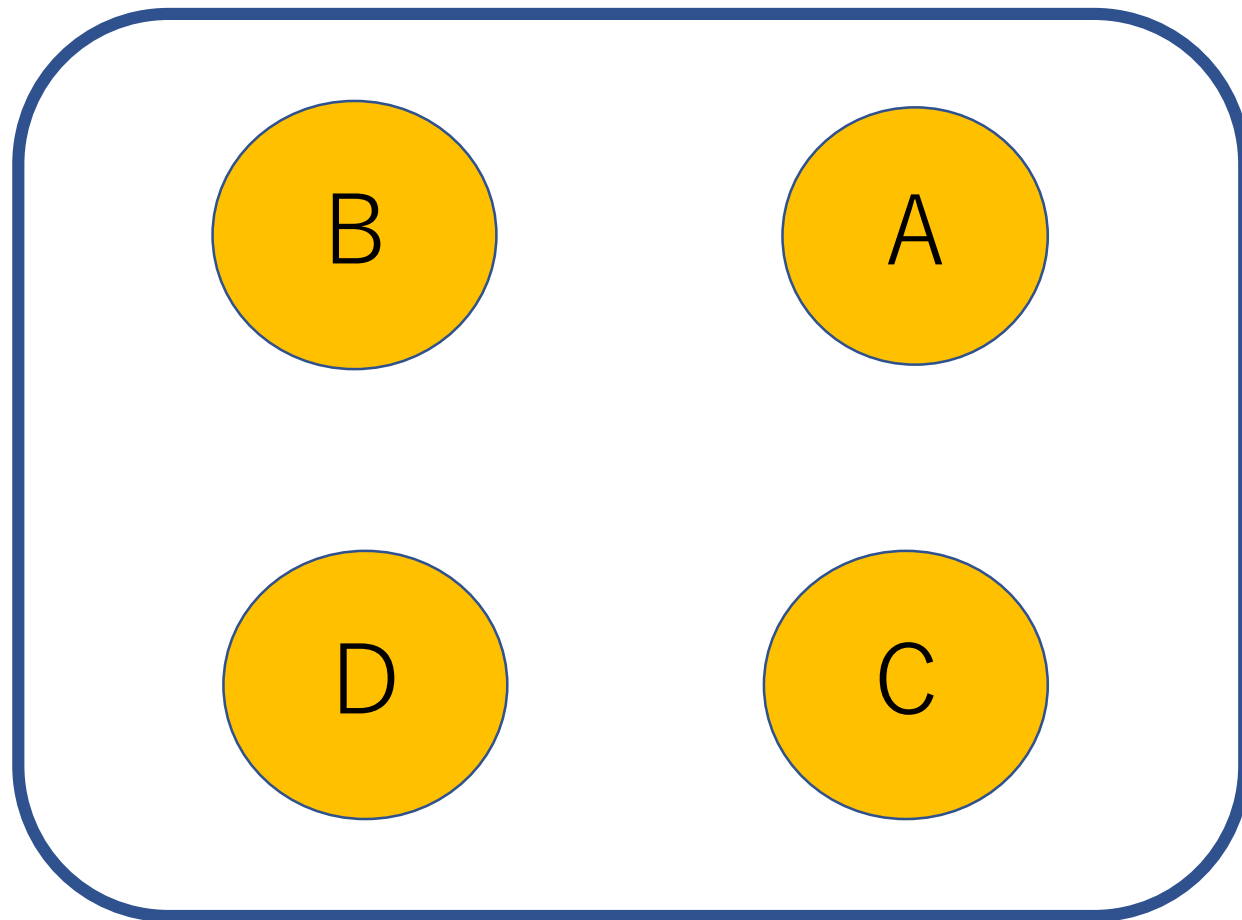
参照：「社会問題解決 総合学習ノート」－世の中の課題を解決するための教科横断
pp.41-48 (かえつ有明中高 木之下 & 田中、2018年) より。

kashiwag@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

あなたは誰であるか？



前



ワーク 1

皆

問① 名前以外で「あなたは誰であるか」を最も示す英文を、I am～の英文で三つ書いてみよう。

(例) I am a member of soccer club in my school.

1 わたしは、～

2 わたしは、～

3 わたしは、～

問い② 上の英文を異なる文化の人が読んだ場合、あなたに対してどんなイメージを抱くでしょうか。クラスメートと話し合って、書き出そう。

ワーク 2

皆

問③ 文化人類学の権威であるミナテ・キトー教授が「エセパ-ジュ族」という民族について説明した、次の英文を読みましよう。英文を読んで、考えたこと・気づいたことを書き出し、シェアして気づいたことをメモしてみよう。

Esenapaj is a relatively large tribe living in North-east Asia.

They think that their brains are very dirty and they can only make it clean when they put their heads down. So, they put their heads down all day.

Moreover, they can't stick to one place. They think that staying in one place all day curses their body. So they move from one place to another not with their families but people they don't know well. Mostly they move in the early morning and late at night.

(簡訳)

エセパージュ族は、北東アジアに住んでいる、相対的には大きな民族である。彼らは自分たちの脳があまりきれいでなく、それをきれいにするには、頭を下げるのが唯一の方法だと思っている。それで、彼らは一日中頭を下げるのだ。

さらに彼らは、一つのところにずっと居られない。一つのところにいると肉体に呪いがかかると思っている。それで、かれらは家族を一緒ではなく、あまり知り合いでもない人たちと、一つの場所からもう一つの場所に動く。ほとんどの場合、早朝と夜遅くに動くのである。

問い④ ミナテ・キトー教授に拠る「エセパージュ族」の二つの特徴は？

→ () を一日中下げる。なぜなら、() と思っていて、清潔な状態にするには、() 下げる必要があると思っっているたね。

→ () にとどまることができず、家族以外の人々と共に朝と夜に移動する。なぜなら、一つの場所に留まることで、() と思っっているため。

問い⑤ 本当はどのような理由で、〇〇がお辞儀をしたり、通勤ラッシュがあったりするのでしょうか。考えて理由を書きましょう。

①お辞儀をする →理由 ()

②通勤ラッシュがある→理由 ()

問い⑥ クラスメイトと共有し、理由を比較してみよう。気づいたことをメモしよう。

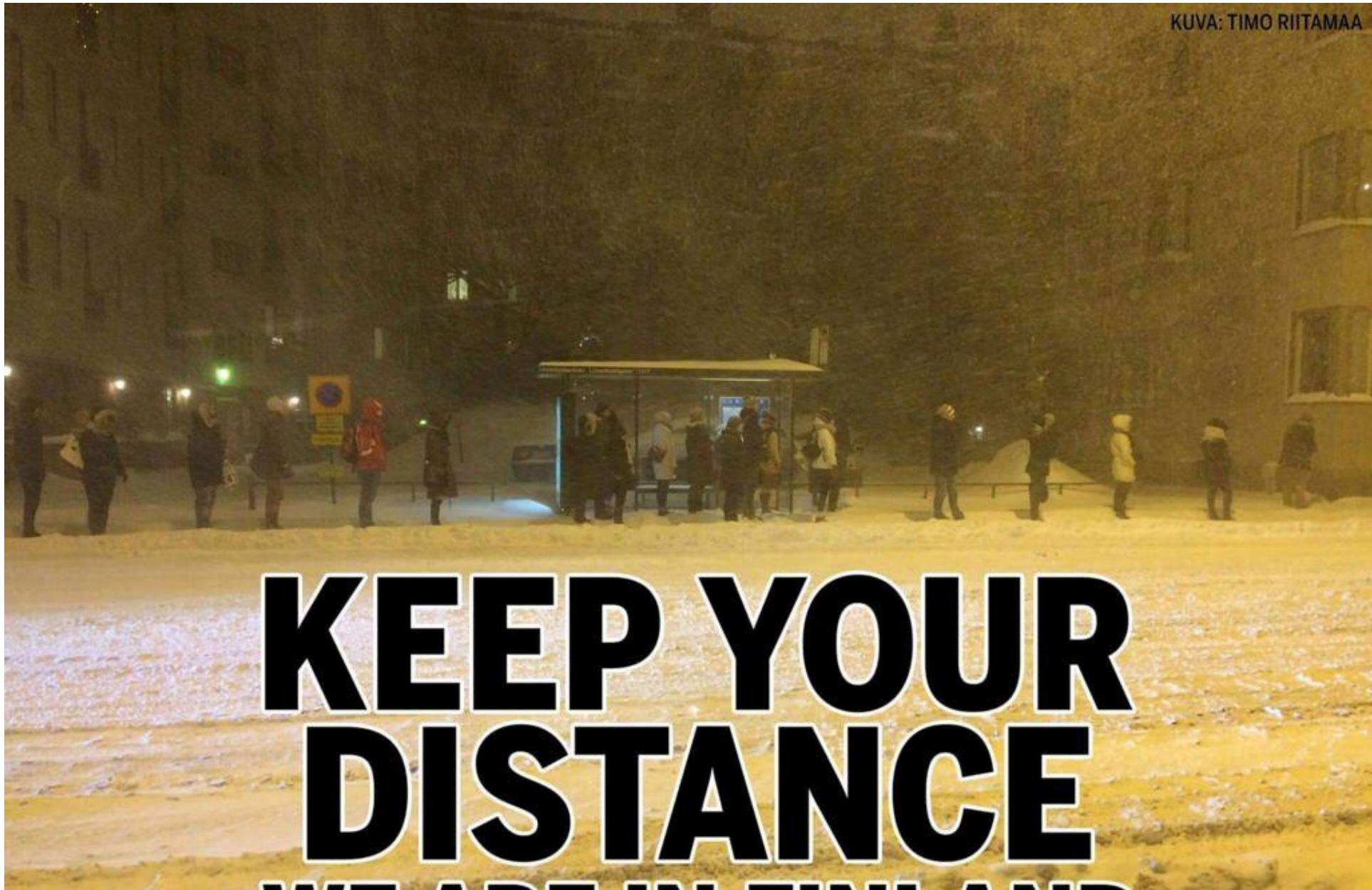
ワーク3

同じパターンで ナシレマ Nacirema



もし、ミナ・テキトー教授が、ある背景や行動に関して、それに至る背景の正しい理解をしていれば、先ほどのような記述にはならなかったかもしれませんね。

あなた方は誰であるか？



他の文化を持つ人の習慣や一部分を切り取って、狭い範囲で定義づけてしまうことがあるかもしれない。

自分の持つ視点にきづいて、客観的に分析し、広く深く考えられるようになるろう。

ワーク 4 共通

問⑦ 6人の生徒が作成した様々な国の文化について、紹介文を読んでみよう。5分

- ① Sangmi : In Korea, young people have to wait until the older starts to eat.
- ② Shray : In India, you have to eat using your right hand, not the left hand.
- ③ Rafa: Polygamy is common in Africa. When a man is married to more than one wife at a time, sociologists call this polygamy.
- ④ Abdu: Masai people spit on other people's hands as a greeting.
- ⑤ Omar: A husband in Saudi Arabia divorced his wife for walking ahead of him.
- ⑥ Eric: In Rwanda, many men walk hand in hand with male friends to show their friendship.

(簡訳)

- ① Sangmi : 朝鮮では、若者はお年寄りが食べだすまで食べてはいけないんだ。
- ② Shray : インドでは、左手ではなく、右手を使って食べないといけないんだ。
- ③ Rafa: 一夫多妻はアフリカでは一般的なんだ。男性が、同時に一人以上の妻をもつが、社会学者はこれをPolygamyと呼んでいるよ。
- ④ Abdu: マサイ族の人々は、挨拶として他の人の手につばを吐くんだ。
- ⑤ Omar: サウジアラビアの夫は、妻が夫より前を歩くという理由で、妻を離婚したんだ。
- ⑥ Eric: ルワンダでは、多くの男性が友情をあらわすために、男性の友人と手と手を取り合うよ。

ワーク4 - A C

問⑧ 6つの中で、あなたが「受け入れられる」と感じる文化と「受け入れられない」と感じる文化を分類し書き出しクラスメイトと共有しよう。5分

受け入れられる

受け入れられない

気づいたことをメモしておこう。

問⑨ あなたやクラスメイトが、「受け入れられない」と感じた文化について理由を分析してみよう。また、それは**どの方法**で考えられたものか。5分

A

C

言語

理由→

知覚

理由→

感情

理由→

理性

理由→

想像

理由→

信仰

理由→

直観

理由→

記憶

理由→

参考資料：8つの方法 (Way of Knowing：知るための方法)

感情	心理的距離 偏見 失感情症 ロマンチック	主観性 共感 無気力 感情に訴える言葉
記憶	目撃者証言 回想 語り継がれた記憶 外部記憶装置	過誤記憶 幻想 記憶法 記憶の再生
想像	創造力 シュールレアリスム 抽象化 解釈	オリジナリティー 再創造 フィクション 後の考え
知覚	写実主義 経験論 感覚 科学的实在論	幻想 誤りやすさ 解釈 権威
直観	認識 推測 推論過程 本能	生得的な知識 内省 反射作用 無意識
理性	合理論 三段論法 誤謬 確証バイアス	演繹法 帰納法 無限背進 既得権益
信仰	反直観的 願望成就 権威 パラダイム	信頼 判断 価値 経験
言語	あいまいさ 明示の意味 言語決定論 分類	翻訳 コミュニケーション 暗示の意味 ステレオタイプ

右側は目安になるキーワードで、もっとあるでしょう。

ワーク 4 - B D

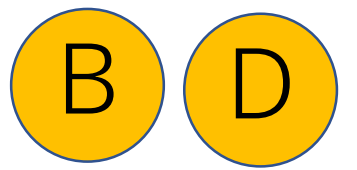
問⑩ 6人の生徒の英文をもとに花子さん、太郎さん、先生が、「文化相対主義」について話し合った。役割になって読んだあとに、文化相対主義について調べ、分かったことを書こう。(10分) 次頁

メモ

文化相対主義とはなにか。短くメモしよう (5分)

メモ

6人の生徒の英文をもとに花子さん、太郎くん、先生が「文化相対主義」について話し合いました。読んだ後に、文化相対主義について調べ、分かったことを書きましょう。(10分)



花子：私はどうしても女性が不利なように感じられる Rafaさんと Omarさんの話は受け入れられないと思いました。

太郎：たしかにね。でもぼくは Abduさんの手に唾を吐くというのも嫌だなあ。

先生：花子さんと太郎くんは「文化相対主義」という考え方を知っているかい？

花子：いいえ。

太郎：僕も知りません。

先生：文化相対主義とは、文化には優劣がないという考え方のことなんです。優れた文化や劣った文化は存在しないということだよ。

花子：えー、でも男女平等が成立していないのは、文化が遅れているような気がする。

太郎：確かに唾を吐くのは我慢したり、後で手を洗えば済むのかもしれないけど、女性が差別されているのは、それとは違う気がするね。

先生：とある文化を「受け入れられない」と感じることは自体には問題はないよ。それをなぜ私たちは「受け入れられない」と感じるのか、なぜ私たちが「受け入れられない」と感じるものがほかの場所では常識となっているのか、その人たちにはどんな正義があるのかと考えることが文化相対主義のアプローチと言えるんじゃないかな。

花子：確かにそうですね。サウジアラビアの人たちから見たら、女性が平気で前を歩く私たちの文化もすごく受け入れがたいものなのかもしれないですね。

先生：その通り。それをお互いに「受け入れられない」と感じて、お互いに相手を責める状態が続くことは、お互いのことを永久に理解しあえず、憎しみや差別の原因になってしまう。

太郎：じゃあ、今は「受け入れられない」と決めつけるんじゃなくて、その判断をいったん保留して、お互いの文化にまずは向き合う必要があるそうですね。

ワーク 5

皆

ABCDで学びを交流してから、文化相対主義から世界の問題を問い直そう。

問⑪ 次の記事を読み、「実社会の状況」を書きだそう。 次頁

実社会の状況 述べられている事実

文化相対主義から世界の問題を問い直そう。

問⑫ この「実社会の状況」に関するあなたの「問い」を書き出してみよう。

Yes/Noで答えられる問い

Yes/Noでは答えられない問い

(例：影響の大きさを問う言葉・どのくらい・「バイアス」「解釈」「価値」
のような単語を使って問う)

問い⑮ 次の記事を読み、「実社会の状況」を書き出しましょう（5分）

ドイツの首都ベルリンの労働裁判所は9日、イスラム教徒の小学校教諭が授業中のスカーフ着用を禁じられるのは差別だと訴えていたのに対し、同市による着用禁止の指示は妥当と判断した。

アルネ・ボイヤー(Arne Boyer)判事は、公務員が勤務中に宗教的なシンボルや衣服をあからさまに身に着けることを禁止するいわゆる中立法は、自由な宗教的表現の権利よりも優先されるという見方を示した。

一方で、氏名非公表で申し立てを行い、裁判所にも姿を見せなかったこの女性教諭に対しては、ベルリン市内の公立中等学校で、より年上の生徒を対象にした職業教育に従事することを認めた。女性が上訴する可能性はある。「ヒジャブ」と呼ばれるイスラム女性のスカーフをめぐっては、同国16州でそれぞれ異なる規制を行っており、今回の司法判断がより幅広い議論をもたらすと予想されていた。

ドイツ法では、消防隊員が着用するマスクなど、健康上および安全上の理由を除き、全公務員に顔を覆うことを禁じており、イスラム教徒が全身を覆う「ブルカ」や顔を覆う「ニカブ」の着用も例外ではない。ただ頭髪を覆うヒジャブについては、国の法律では禁止されておらず、信教の自由と公務員に適用される中立規則とのバランスを図り、ケース・バイ・ケースで対応している州が多い。

AFPBB NEWS のサイトより 「イスラム教スカーフ、小学校教諭の着用禁止 独労働裁が判断」

ワーク5のつづき

皆

あなたの身の回りで、「文化が異なる」ということが、正常・異常の優劣の関係になってしまい、それが偏見や差別につながっている事例を挙げてください。また、それを是正するためには、どのような態度や考え方が必要かを書こう。

事例

是正するための態度・考え

まとめ

答えがかならずしもない問いについて、日ごろは考えることを避けていないか。

特定の状況の道徳的側面を理解するために、理論的枠組みを適用することによって得られた「洞察」、状況に関する道徳的直観は、理論的枠組みの観念から検討し、それに応じて修正することができる。

問いを考える、教材はわたしたちの身の回りにある。

授業のねらい （社会×英語×倫理ジレンマ）

- ・ 自らの文化を客観視する
- ・ 世界の文化を相対化する
- ・ 異なる文化に対する自らの態度にきづく
- ・ 自らの主張や考え方が何に起因するか分析する
- ・ 自らの主張に対する理由付けをする
- ・ 自らの考えを友人と共有する
- ・ 実社会の状況（摩擦や衝突）から、**「問い」をたてる**
- ・ 文化の違いから生まれる偏見や差別という実社会の状況を分析する。
- ・ 身近な問題について、自らの有り方、考え方をみつめ、それらをクリティカルに認知する。

「複雑な文脈で異質なグループで相互作用的に言葉やテクノロジーを用い、個人的なプロジェクトを設計し実行する」

カテゴリー1：相互作用的に道具を用いる

- 1-A 言語 シンボル テキストを相互作用的に用いる能力 (Ability)
- 1-B 知識や情報などを相互作用的に用いる能力
- 1-C テクノロジーを相互作用的に用いる能力

カテゴリー2：異質なグループにおいて相互に関わりあう (Interacting)

- 2-A 他者と良い関係をつくる能力
- 2-B 協同する能力
- 2-C 葛藤 (Conflict) を調整し、解決する能力

カテゴリー3：自律的に行動する

- 3-A 大きな展望 (Big Picture) の中で行動する能力
- 3-B ライフプランや個人的なプロジェクトを設計し行動する能力
- 3-C 権利、利害、限界、ニーズを主張する能力

(Ruchen & Salganic, 2003)

今、注目されるバカロレア教育

① 知の理論 (Theory of Knowledge)

- 1 21世紀の知識基盤社会におけるTOKへの期待
- 2 主体的・対話的で深い学びへの授業改善
- 3 身近な問題に学びを転移する力の涵養
- 4 教科間連携の重視 **良い「問い」を協働でつくる。**

②知識の領域 (Areas of Knowledge)

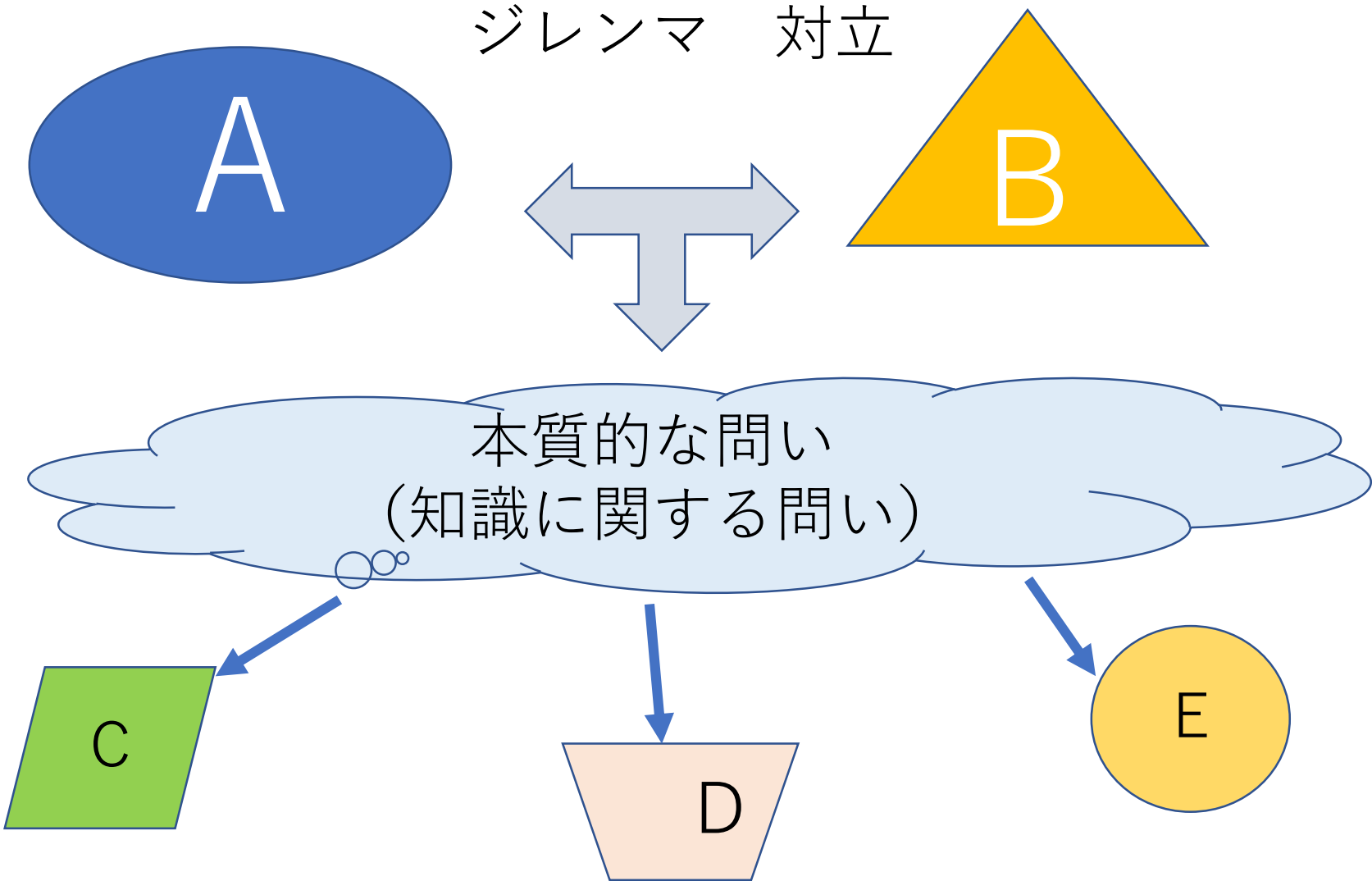
数学 自然科学 人間科学 歴史 芸術

倫理 宗教的知識の体系 土着の知識の体系

③知るための方法 (Ways of Knowing)

言語 知覚 感情 理性 創造 信仰 直観 記憶

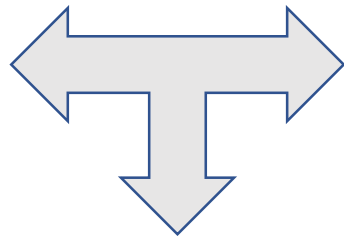
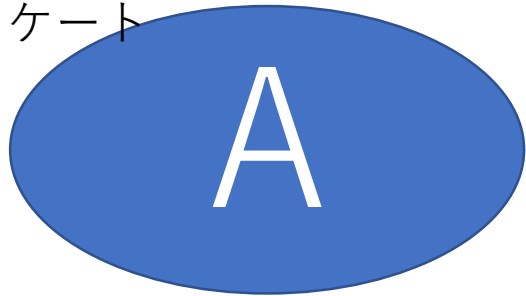
TOKの授業イメージ図



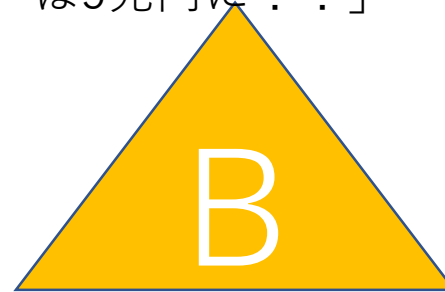
(問) 二つの記事を読んで、共通する課題点はどこにあると思いますか？

また、そこからどのような問が見いだされますか？

95%が反対、新国立
競技場建設計画アン
ケート



株式相場の低迷で損失
は5兆円に！？」



本質的な問い
(知識に関する問い)



育成したいスキルは

批判的思考力

複合リテラシー

生産性 転移性

知識や物事を知る
ということはどういう
ことか多角的に学ぶ



新学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」を実現する

• 「主体的な学び」

学ぶことに**興味や関心**を持ち、**自己のキャリア形成**の方向性と関連付けながら、**見通し**を持つ。自己の学習活動を**振り返って**次につなげる。

• 「対話的な学び」

子供同士の**協働**、教職員や地域の人との**対話**、**先哲の考え方を手掛かりに**考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

• 「深い学び」 習得・活用・探究

各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせ、**知識を相互に関連付けて**より深く理解したり、
情報を精査して**考えを形成**したり、
問題を見いだして解決策を考えたり、
思いや考えを基に**創造する**。

例えば、高校「歴史総合」

- ◇日本と世界の動きを**関連づけて**、歴史の流れをつかむ
- ◇年号を詰め込むのではなく、生徒たちが**調べたり議論したり**する

暗記に頼った勉強法ではない。

例えば、小中「道徳」

- ◇答えが一つではない課題に、子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する道徳教育への転換により、道徳性を育む。

例えば、語彙を表現に生かす、社会について複合資料に基づいて考える、日常生活の文脈で数学を活用する、科学的